



皆野中だより

7月号



令和6年7月1日発行 第4号

皆野町立皆野中学校 TEL 62-0432 FAX 62-0076

【校 訓】剛き意志 深き愛 自由の胸 純なるころ

【学校教育目標】「主体性」「社会性」「将来性」を培う生徒の育成

【めざす学校像のキーワード】心理的安全性とウェルビーイング

生徒数 1年76名 2年73名 3年85名 合計234名

これからの時代に求められる力

校長 板倉 邦弘

一学期も残すところ三週間となりました。天候次第ですが、この学校だよりが届く頃には6月28・29日の学総体秩父郡市予選会（球技・武道）も終わっています。6月12日の陸上競技、6月24日の水泳を含めて、保護者の皆様に応援いただき、ありがとうございました。大きな会場で緊張しながらも、全力で取り組む生徒達の姿をご覧いただけたことと思います。運動部の3年生にとっては、県・関東・全国へつながる最後の大会でした。目標まで届かず悔しい涙もあったかも知れませんが、それぞれの目標に向かって努力してきた過程は、今後の中学校生活、そしてそれ以降の人生にも、きっとつながっていくことでしょう。

さて話題は変わり、いつなのかはっきりしない未来のことを「これからの時代」などと言うことがあります。「これからの時代はAIが社会を動かす」とか「これからの時代の主役は君たちだ」などと言ったりします。では、いつからが「これからの時代」なのでしょう。実は既に突入しているのです。学校では児童生徒1人1台端末の整備、社会ではチャットGPT等の生成AIの出現、自動運転の電気自動車、電子マネー・電子決済の普及など、10年前にはまだまだ先と思われていたことが次々に現実のものとなっています。ドローンが進化した空飛ぶタクシーのような乗り物も、近い将来実用化されるかも知れません。

もう過去となった「これまでの時代」に求められていた学力は、どれだけ覚えたか（暗記したか）が問われる時代でした。また、 $2 \times 4 = 8$ のように正解を出せることが重視される時代でした。そういった意味では「正解がある時代」とも言えます。私が中学生の頃のテストは、まさに「記憶力・暗記力・再生力」が試される問題ばかりでした。しかし、「これからの時代」は、学んで身に付けた知識・技能を使って考え、判断し、表現する力が求められる時代です。何が正解なのかも分からない（正解のない時代）、答えのない問いに挑んでイノベーション（変革）していかなければならないのです。学習指導要領では、

(1)実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」

(2)未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力」

(3)学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性」

という三つの力をバランス良く育むことが求められています。まさに「これからの時代」に必要な力と言えます。そしてこれが通信票の観点別評価の項目になっています。

本校でも、1人1台端末の有効活用をはじめ「これからの時代」に乗り遅れないように新しいこと（流行）を取り入れていくとともに、少人数グループでの話し合いや協同学習、音声や文字での表現活動、生徒同士の教え合いなど、古きよき時代から受け継がれてきたこと（不易）も大切にしながら教育活動に当たり、未来を支える子供たちに「これからの時代・正解のない時代に求められる力」を付けていきたいと思っています。